

(こが・ゆき)

古賀 夕貴さん

フジクリーン工業

第一開発部第三開発課



佐賀県で生まれ育った。小・中学校はバレーボール部で、地域の駅伝大会にも出場していたという。高校は陸上部で、3千〜5千円の選手だったが、進学校だったこともあり勉強を優先していた。「当時、自慢できる活躍はしていなかった」と振り返る。

それでも進学した佐賀大学では、迷わず陸上競技部に入った。「勝負というより、単純に走ることが好き」で、1年生で初のハーフマラソン大会に出場する。フルマラソンに挑戦したのは、4年生になる年。「完走したものの、ふらふらでゴールし悔しい思いをした。そこからフルマラソンに本腰を入れるようになった」。大学院でも走ることを続けた。

もともと農学部で環境保全に興味があり、水質環境保全を掲げる同社を志望。それまで愛知県には縁がなかったが、現在は三好工場(みよし市)で、浄化槽のプロウ装置の設計・開発に携わっている。古賀さんの1日は、出勤前のシヨギン

昨年12月に開かれた愛知県市町村対抗駅伝競走大会。みよし市代表選手所属の、浄化槽の製造販売を手掛けるフジクリーン工業(本社名古屋千種区、後藤雅司社長)の名前があった。第一開発部第三開発課の古賀夕貴(26)さん。初出場で、第6区を任された。実は古賀さん、フルマラソンを2時間45分で完走するつ

研究職とランナーの二刀流

わものだ。

古賀さんは名古屋のランニングチームに所属。昨年10月に石川県で開催された「金沢マラソン」総合女子では、自己ベストの2時間45分7秒で8位に入賞。研究職とマラソンランナーの両面で活躍している。

グから。毎日5〜14キロを走った後、仕事場へ向かう。さらに水曜日に定時退社した後と土・日曜日は、みよし市から名古屋市内に移動してチームの練習に加わり、みっちり走りこむ。

これまでフルマラソンの大会には10回出場。28日には、大阪国際女子マラソン



昨年の「金沢マラソン」で疾走する古賀さん

に出場する予定だ。「準招待選手の基準が2時間45分以内で、自己ベストにわずかに及ばなかった。来年は準招待選手として出場できるよう、練習に励みたい」と、さらなる意欲を燃やしている。

(毎週金曜日に掲載)

